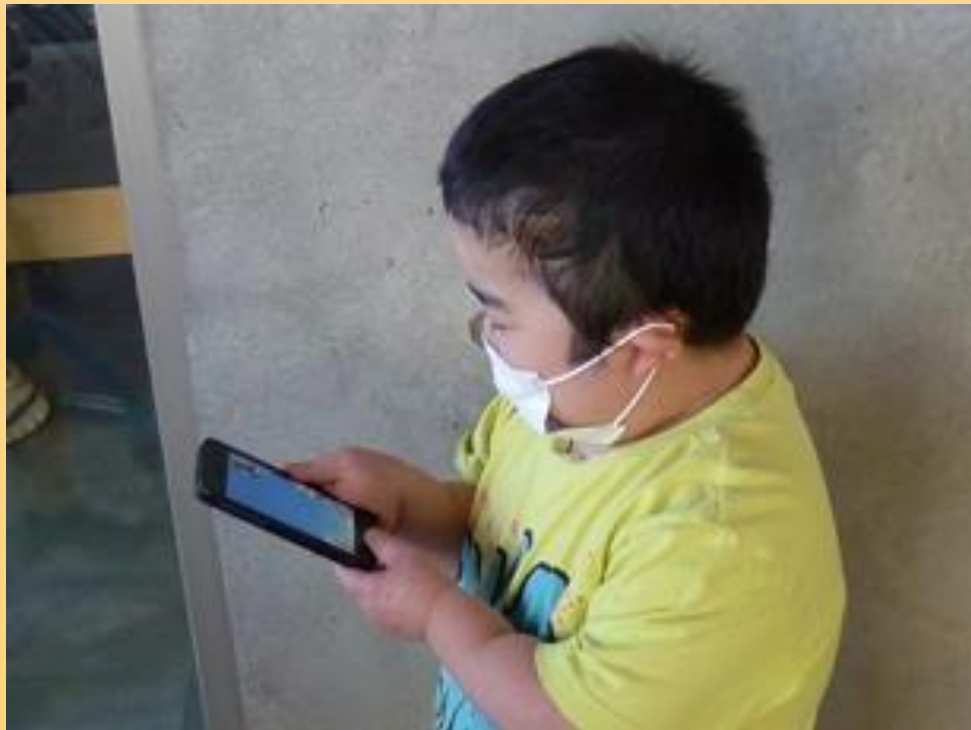


# 成果を実感するための

## I C T 機器活用

— 生徒 A の学力向上・体力向上・生活改善の取り組みから —



福井県立福井東特別支援学校

太田 真揮

# 生徒の実態(中学部入学時)

## ○ 感染症に罹患・重篤化しやすい

⇒激しい関節痛・嘔吐(2週間～1カ月の入院)

## ○ 低身長

⇒身長85cm(中学1年時) 手足も短い

## ○ 重度の骨粗しょう症・筋力低下

⇒日常動作が困難

⇒骨折の危険性

⇒常時、電動車いすを利用

## ○ 慢性的な疲労感・だるさ

⇒長時間の活動が困難

⇒恒常的なだるさ・疲れ(炎症反応CRP



高IgD症候群  
(自己炎症性疾患)

10～20)

# 新薬投与後の生徒の実態

## ○ 免疫力・回復力の向上

⇒感染症にかかる回数の減少、入院期間の短縮(3日~7日の入院)

## ○ 身長増加

→身長100cm(中学3年時) 手足も伸長

## ○ 骨粗しょう症の緩和・筋力の向上

→骨折リスクの減少

→将来、歩行が可能になる(医師の見解)

## ○ 疲労感、だるさの緩和

→炎症反応が低下(CRP0.3~2)

→生徒自身も病状の回復を自覚

「普通の人とは元気な時、こんなに身体が楽なんですね」



# 病状の回復 ≠ 自己を高めようとする意欲

自主的に学習に取り組む  
姿勢・意欲の不足

歩行への恐怖感



車いす生活への依存

健康管理意識の低さ

学力

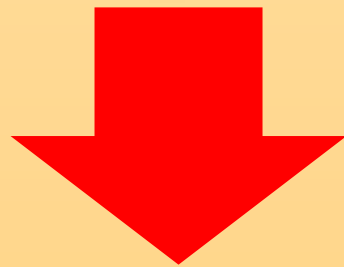
体力

生活

努力

実

感



成果

ICT機器で



自主的に取り組む意欲

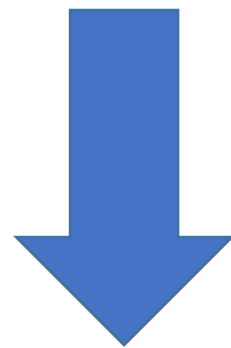


# 学習向上の取り組み

学力が高まったと生徒が実感を得るために

- 客観的指標（日本漢字能力検定）の利用

※日本漢字能力検定は次ページ以降「漢検」と表記

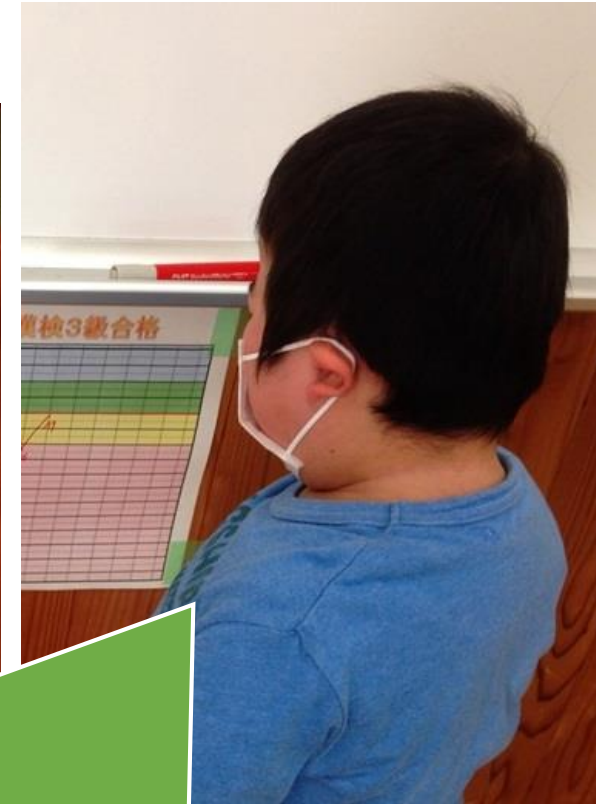
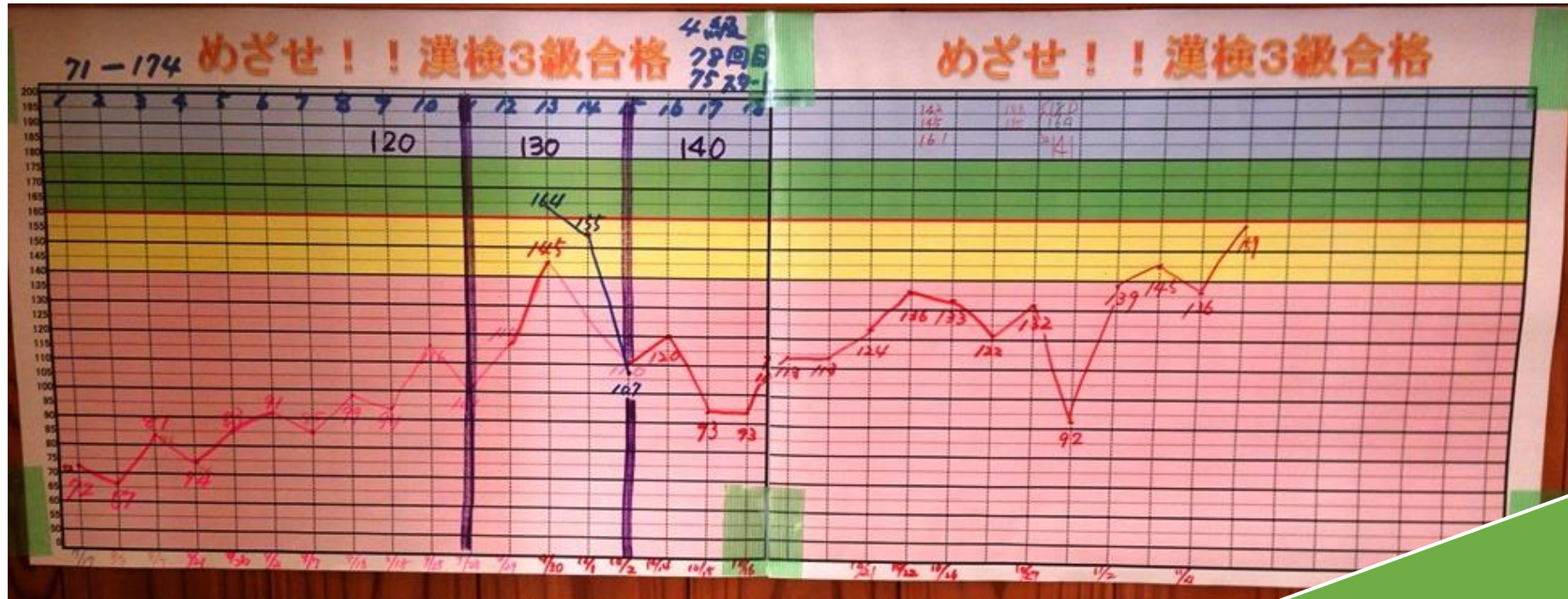


I C T 機器の有効性を検証

徹底した具体的数値化

# 客観的指標による 徹底した学力の具体的数値化

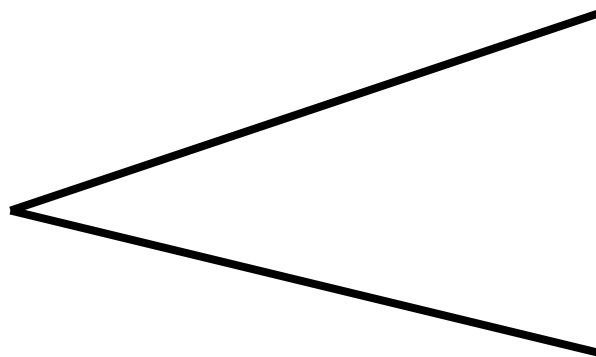
## 国語：漢検のグラフ



「勉強すると、どんどん得点が上がりますね」

# I C T 機器利用の有効性について検証

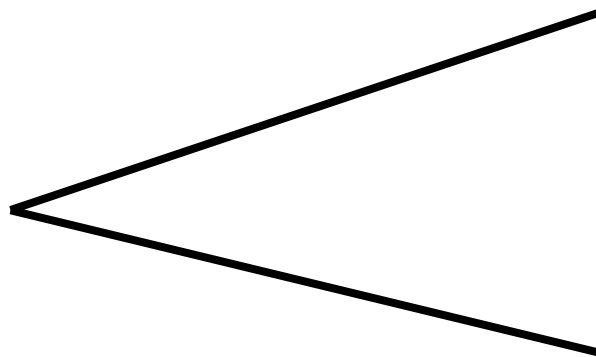
アプリ



プリント

効率的な練習

アプリ



掲示物

情報の共有が簡単



学習でがんばって取り組んだこと

漢検を覚えるまでやったこと。

毎日、約5時間学習をした。

新しい学習方法をやってみた。

(暗記カード)

学習の成果



試験を受けて良い結果が出たと思う。

この方法をやってみて、大変だったけどやっばかったと思う。

**努力**

結びつき 実感

**成果**

「新しい学習方法を試してみます」 (学習に対する自主性)

「上位級の漢検や英検にもチャレンジします」 (挑戦する姿勢)

成果：学習習慣の定着 (1日2時間)

日本漢字能力検定 4級・3級 合格

実用英語技能検定 5級 合格



# 体力向上の取り組み

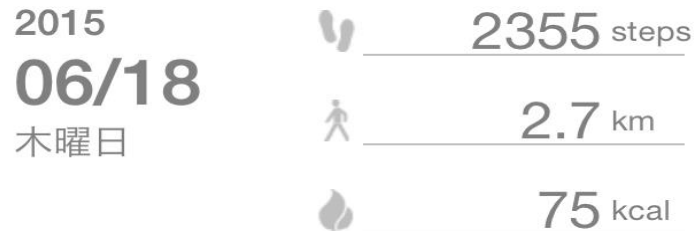
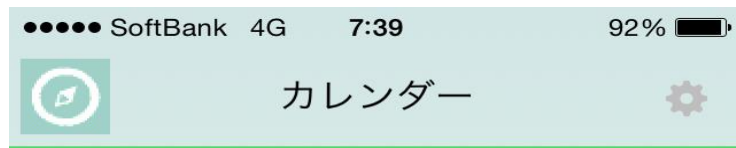
体力が高まり・自力歩行の良さの  
実感を得るために



○移動履歴アプリ「LIFE\_NOTES」で  
歩行距離を記録



○iPhoneの「カメラ」機能で動画記録



具体的データをもとに教師と生徒が振り返る

長く歩いてもつかれなくなった  
歩くスピードが速くなった。



4月 歩行の様子



10月 歩行の様子



「しっかりした姿勢で、歩くことができるようになった」



# 日常生活の中での電動車いすの利用

4月

常時 電動車いすに  
座っている状態



2学期以降

電動車いすの利用

登校時

玄関⇒教室

給食時

教室⇔

ランチルームに限定





## 身の回りの自立



しゃがんだまま、掃除することができるようになった

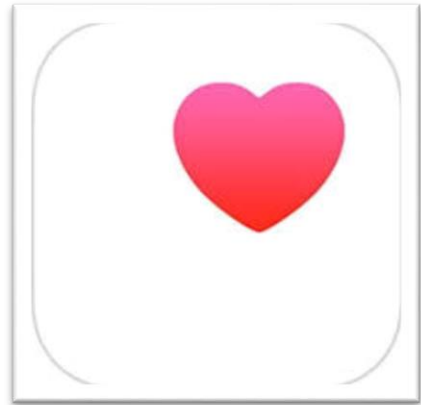
## チャレンジ精神の萌芽



「歩く方が楽です。  
歩いて競技に参加します」

# 生活改善の取り組み

健康管理ができるという実感を得るために



- 「ヘルスケア」アプリで、  
睡眠・朝食を記録



- 「カメラ」で、給食の食器を撮影

# 睡眠記録

6月7日～8日

23:00 - 7:50  
睡眠

6月8日～9日

23:00 - 7:30  
睡眠

6月9日～10日

22:30 - 7:40  
睡眠

6月10日～11日

22:20 - 7:30  
睡眠

6月11日～12日

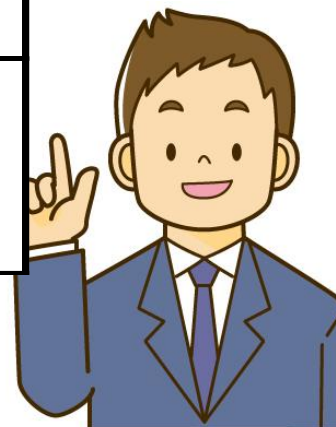
23:00 - 8:30

比べて提示

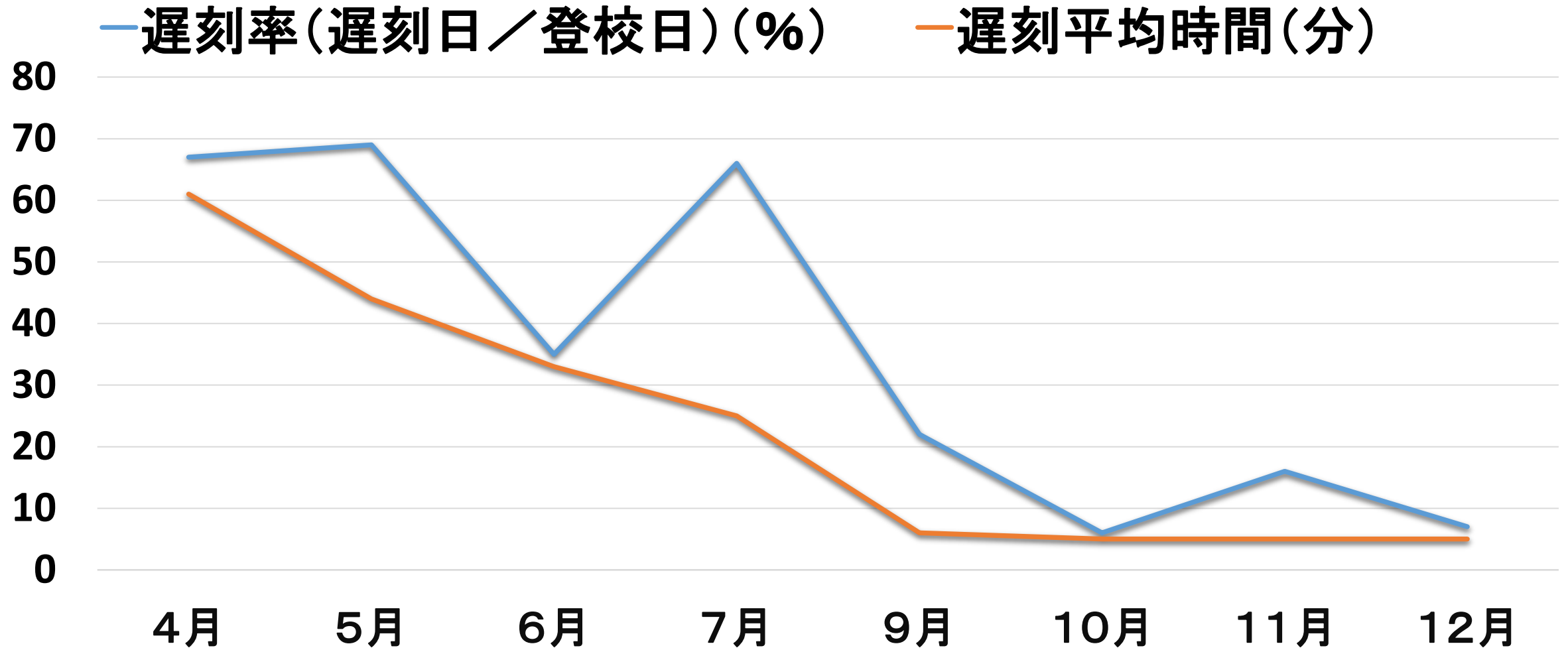
# 欠席・遅刻の記録

8	月	遅刻 15分
9	火	遅刻 7分
10	水	○
11	木	○ 早退
12	金	遅刻 1時間

早く寝れば、遅刻せずに済みますね。  
夜11時よりも早く寝るようにします。



# 生徒Aの遅刻比率と遅刻平均時間の変遷



早ね、早起きも心がけている  
iPhoneの目覚めで起きている



苦手な給食メニュー



ほとんど残してしまう



苦手なメニューについての授業を実施

記録写真をもとに、  
「前回より多く食べてみよう」と声掛け



記録写真を比較して提示

⇒生徒「苦手なものを食べようとする姿勢」を評価



10月16日



残っていたチンゲン菜

11月13日



ほとんど完食

苦手なご飯が出て前ほど苦ではなくなった。



# 実感をもたせるためのICT機器活用

## ○ 利用にあたって配慮すべき点

- ・ 評価規準に「書字」が含まれるもの
- ・ 複数人数（3者以上）で情報を共有するもの

## ○ 努力や成果を客観的・具体的データにして提示

⇒ データを基に、生徒自身が具体的な目標を設定

⇒ データを振り返り、努力と成果の因果関係を実感

**生徒の実態・ICT機器・アプリの特性を考察**

**⇒より簡易的・効率的な方法を選択すべき**

**ご清聴ありがとうございました**

